

科目名	グローバル・サービ斯拉ーニング A 教員名 小関 隆志
実習先	インドネシア共和国・バリ島
実習期間	2023年8月21日(月)～2023年9月3日(日)
テーマ	バリ島における交流活動・文化体験

目的(実習のねらい):

インドネシア・バリ島において、日本語学校で日本語教育を体験したり、孤児院に住む子どもたちと交流したり、現地の大学生と交流したりする各種活動を通して、バリ島の社会の現状や課題を学ぶことが第一の目的である。

また、観光客向けに作られたバリ島文化ではなく、地元住民の生活に根ざした文化を体験することで、バリ島の社会の現状を学ぶことが第二の目的である。

さらに、学生がグループ単位で自ら話し合っ活動を企画準備し、現地の活動のなかでは人々との信頼関係を構築することでリーダーシップを発揮し、チームビルディング、コミュニケーション能力を高めることが第三の目的である。

実習報告:

実習は2023年8月21日から9月3日までの2週間にわたり、バリ島内で日本語学校、孤児院、現地大学、ごみ山という4か所の実習地で行い、また各種の文化体験に参加した。1年生から4年生までの計13名(女6・男7)が実習に参加した。

0. オリエンテーション

2023年5月27日にオリエンテーションを開催した。参加学生の自己紹介に続いて、コーディネーターである池頭稔氏(CECジャパンネットワーク代表)と野口和香氏(Bali Japan International College 教員)が講師として基調講演を行い、実習の概要を説明した。その後、参加学生のチームビルディング活動、グループ分けと役割分担、実習内容についての意見交換、最後に事務連絡を行った。実習地ごとに日本語学校、孤児院、大学のグループを作り、それぞれに実習内容を検討することとした。公式のオリエンテーションは1回のみであったが、その後学生は自主的にオフラインでミーティングを開いて詳細の検討を行い、池頭氏・野口氏とも緊密に連携を取りながら、実習に向けた準備を進めた。

1. 日本語学校

デンパサール市内の日本語学校 Bali Japan International College (以下 Bali Japanese) およびその系列校である SMK 高校の日本語クラスにおいて、生徒に日本語を教える機会を得た(8月22日～24日)。学生が事前に教材や授業計画を準備し、それに沿って授業を展開した。あわせて、インドネシアでも人気の歌「恋するフォーチュンクッキー」の歌と踊りを生徒に教えた。

Bali Japanese の5周年記念イベント(8月27日)での交流と、SMK 高校生との交流・文化体験(8月31日)にも参加した。

2. 孤児院

デンパサール市内の孤児院 Panti Asuhan Dharma Jati において、そこで暮らす子どもたちに昼食を作って提供するとともに、子どもたちに英語・日本語を教え、子どもたちと遊ぶ体験をした（8月25日、8月28日、9月1日）。8月28日と9月1日は、現地ワルマデワ大学の学生との共同作業が実現し、現地の大学生からサポートを得た。

3. 現地大学

デンパサール市内の私立大学、ワルマデワ大学(Universitas Warmadewa)との交流を行った（8月29日）。大学キャンパス内の見学後、ワルマデワ大学の学生と明治大学の学生の双方がプレゼンテーションを行い、またバスケットボールのゲームを楽しんだ。明治大学の学生は日本の文化として柔道を紹介した。

4. ごみ山

バリ島の廃棄物処分場（ごみ山）で暮らしている人々の貧しいコミュニティがあり、そのコミュニティを支援する非営利組織 Bali Life Foundation がある。当初は計画に含まれていなかったが、学生の要望により急遽、同組織に受け入れを依頼し訪問見学が実現した（9月1日）。

訪問したのは、このコミュニティの小学生が通う学習支援施設(Bali Life Suwung Community Centre)である。同施設は親の教育にも尽力しているとのこと。

5. 文化体験等

SMK 高校を訪問した際に、高校の教員がバリ・ヒンドゥー教の教義をわかりやすく講義してくれた。高校生に民族衣装を着せてもらい、その民族衣装を着たまま、民家を訪問して祭壇用の装飾や供え物を作る方法を教えてもらい、バリ・ヒンドゥー教の礼拝を体験した（8月24日）。Bali Japanic5周年イベントの際には、伝統的な民族ダンスを鑑賞し、教わった。

バリ島南部にあるヒンドゥー教の聖地ウルワツ寺院を訪れ、伝統舞踊「ケチャダンス」を鑑賞した（8月26日）ほか、観光地として名高いウブドの王宮やコーヒープランテーションを見学した（9月2日）。日々の食事においても、ナシゴレンをはじめとする各種のインドネシア料理・バリ島料理を経験した。

このほか、休日には各自観光を楽しんだ。

6. 事後学習

学生は帰国後に実習の成果をまとめる作業を行い、実習報告会において発表した（9月30日）。

専任教授 小関隆志

明治大学 経営学部 2023年度グローバル・サービスラーニングA活動紹介ページ

<https://www.meiji.ac.jp/keiei/features/gsl.html>